

第二回 2007 一輪車 100km 記録会・11月4日・結果

会長 渡辺 一
日本一輪車マラソン協会
長野県一輪車協会

「運も実力のうち」、記録会の成否を決める天候は我々に味方して昨年を上回る好気象に恵まれた。千曲河畔でフリークランクによる二回目の 100km は 18 名(小学校 3 年・女子 4 名～56 歳・男子)が走り、田中優行が world record、3 時間 55 分 49 秒(時速 25.6km)で快走。史上、初の 4 時間切りを果たした。

100km 二回連続完走者は 5 名、松浦健太郎、池田憲一、辻村瑠、黒崎晴夫、庄司来夢。自己記録更新は 3 名、池田、辻村、庄司。

他に、日本から世界に誇る world record は 1987 年 8 月 7 日に小池隆行(高 3・17 歳・やまとくらぶ)が樹立した 100 マイル(160.9344m)の記録、6 時間 44 分 21 秒がある。宮城県名取市のサイクルスポーツセンターで 42 インチの大口径一輪車を駆使してアメリカのフロイド・ビューティ(34 歳)との対決は 15 分の差をつけて小池が制した。以後、この記録への挑戦者が現れない不滅の記録である。



池田憲一(56 歳)は 28 インチから 700C へ乗り換えて昨年より 35 秒早いゴール。「わずか 35 秒だが、この年齢で 700C へ乗り換えての記録更新は格別な思い」と。

辻村瑶(中2・13歳)は24インチから700Cへ乗り換えて6時間1分。自己記録を1時間9分短縮した。700Cが体型に合ったようだ。「1分差で5時間台に届かなかったのは悔しい」と。

庄司来夢(小6・11歳)は二回とも24インチで走り、前回は最年少の孤独なレースだったが、今回は小学校3年の山田茉鈴(8歳)との同走で元気一杯。自己記録を1時間弱短縮して6時間11分と本来の走り。

黒崎晴夫(52歳)は24インチでフル完走15回、年代別記録の2階級保持を誇るが700Cに乗り換えて二回目の100kmは自己記録更新ならず。チタンフォーク・軽量700Cの制御は難しかったようだ。長年の選手生活から発する一輪車理論は的確で貴重な存在。今回の言は、「100kmは一回毎に初めてのレースであり、前回の体験には依存できない距離である」。写真家として1989年、東西ドイツ統一時に「ベルリンの壁」崩壊の歴史的場面を撮影した。一輪車は余技か。

2007年8月、田中は24インチから700Cに乗り換え、10月末までの三ヶ月間、クランクの長さを試しながら100kmを二回、合計1500kmを走り、記録会へ臨んだ。

サイクリング道路の10km区間を折り返して一周すると20km。それを5週して100kmだが、今年の記録会では誰もが4周目の60km～80kmが筆舌に尽くせない苦しさを書いた。その苦しい区間で、どの選手も大幅にタイムが落ちたが、5周目は「これが最後」と気力を振り絞って走るの、スタート直後の1周目と似たタイムで走った選手が多い

記録達成の要となる4周目で田中のペースが落ちないように、コースに展開する役員は田中が通過する時に「3時間50分ペース」を告げて激励した。この声援は抜群の効果があり田中は苦しい4周目も2分ほどの遅れで通過して5周目に入った。5周目の80km～100kmは3分ほど遅れたが1周～4周までの20kmスプリットタイムは安定している。ゴールまで3kmの北ポストで酒井茂夫氏から「4時間まで12分ある」と知らされてスパート。

ゴールまで1km地点、「田中、栗佐橋を通過、ガンバレ!」。無線から聞こえる役員の声も歴史的瞬間を確信して高揚している。

「来るぞ!」、ゴールでは200m先の坂上を注視。カメラをかまえて沈黙が続く。坂上の堤防に白ヘルメットが覗いた。「来た!」。すぐに赤色の前傾姿勢が軽やかに跳び出してきた。駆け降りてくる速さは時速30km。これまでに100kmを走ってきたとは思えない軽快な走りだ。安定した走りのまま右手を突き上げ快心の笑みでゴールを駆け抜けた。ゴール後は足が終わっているので無理に減速せず登り坂を利用して停止。3時間55分と知って「やったー」と小声で呟いた。

田中は60kmまでは3時間50分ペースで走り、各選手が大幅にタイムを落とす

60km ~ 80km ~ 100km も当初の 20km の記録から数分の遅れで通過。

田中の 20km 毎のタイムは

スタート(45 分 55 秒)20km(46 分 04 秒)40km(46 分 37 秒)60km
60km(47 分 52 秒)80km(49 分 21 秒)100km。

「やまとくらぶ」の永田博士氏作成の「タイム予想表」から 4 周目と 5 周目のタイム次第で 4 時間切りは予想されたが、レース終盤にトラブルはつきものでありゴールするまで結果は出ない。

毎年 5 月 4 日に行う「全日本一輪車マラソン・42.195km」の「タイム予想表」も永田氏が作成している。2007 年 5 月 4 日の 22 回大会では「予想表」にからんだ大会史上、初の嬉しい「予想外」があった。

「予想表」は記録の進歩に合わせて毎回、改定しているが、700C の菅原裕太が最初から「予想表」を上回るタイムで快走して 1 時間 32 分 47 秒(時速 25.7km)でゴールした。それまでの大会記録は 1 時間 38 分 23 秒であり、22 回大会の「表」は 1 時間 34 分まで記載してあった。菅原は大会記録を一挙に 5 分 36 秒短縮して「タイム予想表」を超える快挙を達成した。タイム予想表 <http://www.fsinet.or.jp/~redcross/juma/>

この時、菅原の前半 20km と後半 20km は、数秒差であり、ほぼ同じタイムで走っている。これまでの競技結果では前半に飛ばした選手は後半にはタイムが落ちるパターンを繰り返していた。田中は 24 インチで 42.195km を 9 回、菅原は 5 回走ったが 1 時間 40 分を切れなかった。

菅原は自転車部に属し、毎日、遠距離の自転車通学から始まる複合的なトレーニングを取り入れた豊富な練習量と体型に合った 700C によって、見事に、これまでのパターンを覆した。

二回行った 100km 記録会のスタート ~ 20km と 20km ~ 40km の区間タイムを比較すると大半の選手は、ほぼ同じタイムで走っている。今後の 42.195km は、前半と後半のペース配分など考慮せずに走り切るスプリントタイプの展開となろう。

今、国際的な動向として、これまで一輪車の標準サイズは 24 インチだったが、遅まきながら 700C へ移行しようとする動きが聞こえる。24 インチが、標準サイズとして定着したのは、曲乗りから始まった一輪車が 20 インチと 24 インチを使っていたという単純な理由である。

1978 年、「サーカスの曲乗り」から脱して「スポーツ」として発足したにも拘わらず、近年まで、「車輪のサイズとクランクの長さ」を疑問視せずに過ごしてきたが、世界では、その規格が一輪車の発展を阻害してきた事に気付き、新たな動きとして成人の体型に合った 700C を推す動きがある。

2007年に開催した「第22回全日本一輪車マラソン」、「第11回やまと一輪車競技大会」、「第二回一輪車100km記録会」では、1994年から世界に先んじてフリークランクを採用。数年前からは700Cへの移行を進めてきたが、今、その記録は世界に誇る結果になった。

前回のレポートで「若い頃の苦勞は買ってでもしろ」と書いたが、今回は「若い」どころか8歳と9歳の「若い」小学校3年の女子4名が100kmを完走した。うち3名は2007年5月4日の「第22回全日本一輪車マラソン」で20kmを走り2008年5月4日に、いよいよ42.195kmを走る予定なので、その練習として「60km程度まで走るか」と参加を決めたが、練習段階で、あっさりと100kmを走り切った。それに自信を得て100km記録会ではそれぞれに目標タイムを設定して余裕で完走した。

山田茉鈴・8歳は6時間11分43秒(24インチ・クランク75mm)で走り、ゴールしてから遅れた仲間を励ましたいと自発的に一輪車で北コース6kmを伴走する余裕。

大会準備は前日の11月3日、13:00千曲橋集合。昨年は初めてであり、打ち合わせに1時間30分を費やしたが、今回は30分で終了。

コース警備は定点警備と自転車3名の巡回警備を行い、13:30には定点警備を撤収して自転車による伴走とした。他にガードマン3名を配置。14:38記録会終了。



第二回 一輪車 100km 記録会

2007年11月4日 千曲川サイクリング道路

「運も実力のうち」、記録会の成否を決める天候は我々に味方して昨年を上回る好気象に恵まれた。千曲河畔でフリークランクによる二回目の100kmは18名(小学校3年・女子4名～56歳・男子)が走り、田中優行がworld record、3時間55分49秒(時速25.6km)で快走。史上、初の4時間切りを果たした。



world record 田中 優行 700C

100km 3時間55分49秒

第二回 2007 一輪車 100km 記録会・11月4日

出走 18名(男11+女7)
 一輪車サイズ 700C・7名(男6+女1)、 24インチ・11名(男5+女6)

エントリー 20名(男12+女8) 参加9県
 群馬、東京、千葉、神奈川、大阪、滋賀、長野、富山、愛知、

コース 長野県千曲市・千曲川サイクリング道路・10km区間を周回

気象 曇りから晴れ 微風・1m

気温 7時・8度、8時・9度、9時・11度、10時・14度、12時・16度、
 13時・17度、14時・18度、14時30分・20度

大会資料 第23回全日本一輪車マラソンプログラムへ掲載

記録 Record	氏名 Athlete name	年齢 Age	学年 School year	所属 Prefecture and club	インチ Wheel (in)	クランク Crank (mm)	100km		42.195km	
							自己記録 Personal best	完走 Career	自己記録 Personal best	
3:55:49 (100km)	田中 優行	24		大阪・八田荘	700C	60		9	1:42:41(24)	
4:32:45 (100km)	松浦健太郎	23		大阪・gleam field	700C	60	4:18:09(700C)	14	1:39:03(700C)	
4:52:51 (100km)	千葉 慎吾	21		愛知・名古屋	700C	75		4	1:57:17(24)	
5:33:52 (100km)	池田 憲一	56		滋賀・池田	700C	80	5:34:27(28)	8	2:10:14(24)	
5:42:00 (100km)	西尾 和也	12	中1	神奈川・大和	24	70		1	2:11:34(24)	
5:42:21 (100km)	桜井 雅崇	21		富山・富山若草	24	75		10	2:00:07(24)	
6:01:04 (100km)	辻村 瑤	13	中2	神奈川・大和	700C	89	7:10:47(24)	4	2:35:59(24)	
6:07:20 (100km)	黒崎 晴夫	52		群馬・からっ風	700C	84	5:56:29(24)	15	2:08:50(24)	
6:11:43 (100km)	山田 茉鈴	8	小3	神奈川・大和	24	75				
6:11:53 (100km)	庄司 来夢	11	小6	神奈川・湘南	24	80	7:04:06(24)	1	2:22:37(24)	
6:29:17 (100km)	西尾 直也	10	小5	神奈川・大和	24	89				
6:31:19 (100km)	秦野 希望	10	小5	神奈川・大和	24	80				
6:57:36 (100km)	山本 麻由	9	小3	神奈川・大和	24	89				
7:22:14 (100km)	山本 悠加	9	小3	神奈川・大和	24	89				
7:32:19 (100km)	滝沢 博司	38		長野・長野	24	75				
7:38:33 (100km)	米倉 百香	9	小3	神奈川・大和	24	80				
5:54:27 (60km)	米倉 政治	41		神奈川・大和	24	89				
1:02:25 (20km)	辻村 翔	20		神奈川・大和	700C	75	5:06:31(700C)	12	1:51:38(24)	
不参加	庄司 海渡	14	中3	神奈川・湘南	700C	-	4:53:39(700C)	1	1:49:11(700C)	
不参加	石腰 早紀	19		神奈川・湘南	700C	-	5:05:17(700C)	8	1:49:01(36)	